

第1学年 特別の教科道徳 学習指導案

第1学年3組 31名
授業者

1 学年分科会がめざす児童像

伝える楽しさを感じながら、自分の思いや考えを伝えることができる児童

1 主題名 じぶんの よい ところ (内容項目：A 個性の伸長)

2 ねらいと教材名

(1) ねらい

真っ白なペンギンにもよいところがあることを理解し、自分の特徴やよさを見付けて、これからもそれを大切にしていこうとする心情を育てる。

(2) 教材名

「ぼくは 小さくて 白い」(出典：日本文教出版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値

将来にわたって自己実現を果たせるようにするために、自分のよさを生かし、そのよさを伸ばしながら、調和のとれた自己を形成していくことが大切である。そのためにも、早い段階から自分自身の特徴を知り、そのことを自身で実感するような経験を積ませることが大切である。

児童が自ら自分自身の特徴に気付くことも大切であるが、多くは他者からの評価が契機となる。他者から指摘されることによって、自分のよさに気づき、それを自身で実感することで、その気づきがより確かなものとなる。

(2) 教材について

本教材は、どんな人にもよいところはたくさんあり、自分のありのままを大切にすればよいということ、そしてそのよさは他者が一番よく知っているということに気付くことのできる教材である。

教材を使って学んだ後は、友達同士で互いのよさを見付けて伝え合う活動を行う。友達から自分のよさを教えてもらうことによって、自分の特徴について気付かせたい。

4 児童の実態

本学級の児童は、自分を客観視することが十分にできない。自分の特徴に気付くのは、家族や教師から褒められたり、友達から自分のよさを認めてもらったりしたことがきっかけとなる場合が多い。外からの働きかけによって自分の特徴に気づき、その気づきを児童が具体的な生活場面で実感することによって自分の特徴への気づきがより確かなものとなり、自分のよさを伸ばしていくことにつながっていくと考える。

本学級では、帰りの会で行っている「きょうのぴかぴかさん」で、クラスのために頑張っていた友達や、自分のためによい行いをした友達を発表している。また、休み時間にも、友達のよいところを周りの人に伝える児童の姿も見られる。友達の頑張りやよいところを見付ける活動に対しては、多くの児童が積極的に参加している。一方で、自身のよさについては、客観的に捉えることが難しい児童が多い。9月初めに行った実態調査で、30人の中で自分の良さを「言える」と回答した児童が8人、「分からない

い」と回答した児童が11人、「言えない」と回答した児童が11人いることから、その実態が伺える。

他者との関係の中で自身の特徴を知り、児童がそのことを自身で実感することによって、自身の特徴への気づきが強くなるものとなる。本教材では、お互いのよさを伝え合うことによって、改めて自身のよさに気付かせたい。

5 子どもの思いや考えをつなげるICT活用の意図

< ICT活用によって、ねらう効果 >

【Google フォームによる事前の聞き取り】

- ・「自分のよさ」について「分かる」「分からない」「ない」の3択で事前に聞き取り、グラフ化する。導入と終末で結果のグラフを提示することで、本時の道徳的価値に迫らせる。
- ・自分のよさが分かるか、という問いに対して「分かる」と自信をもって答えられる児童は少なく、多くが「分からない」あるいは「ない」と答えると予想している。導入でアンケートの結果を提示することで、自分のよいところについて考えている主人公のペンギンの気持ちに寄り添うきっかけをつくる。
- ・同じ内容のアンケートを授業の終末でとると「分かる」と答える児童の割合が大きく増加することも予想できる。結果のグラフを即時開示することで、一人ひとりが自分のよさを見付けられたことを感じ取らせる。

【スライド】

- ・教材文の読み聞かせの際、挿絵と重要な台詞等を中心に作成したスライドを見せることで、本時では何について考えればよいのか、焦点化を図って考えをもたせやすくする。

【オクリンク】

- ・友達よさを伝える活動でオクリンクを活用することで、ひな形となるカードを教師が作成し児童に一斉送信できるため、児童が考えを書く際に文型が定まってい書きやすい。
- ・「みんなにおくる」機能を活用することにより自席にいながらより多くの友達に送ることができる。
- ・カードのコピーが容易なため、「もっとたくさんの友達のよいところを見付けたい！教えたい！」という児童の思いにも十分こたえられる。

6 年間指導計画における位置付け

指導時期 の目安	主題名	教材名	内容項目
2月	「じぶんの よさ」	「あなたって どんな 人？」	A 個性の伸長
付録 (本時)	「じぶんの よい ところ」	「ぼくは 小さくて 白い」	A 個性の伸長

7 本時 (1 / 1 時)

(1) ねらい

真っ白なペンギンにもよいところがあることを理解し、自分の特徴やよさを見付けて、これからもそれを大切にしていこうとする心情を育てる。

(2) 展開

	○具体的な学習活動と主な発問 ・予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ◆評価 □情報モラルに関する指導 ■ I C T 活用
課題把握	○事前アンケートの結果を提示して、自分のよさについて考えるきっかけをつくる。	■事前アンケートの結果を提示する。 ◇ねらいとする道徳的価値について、児童に関心をもたせる。
	めあて じぶんのよさを見つけてカードにまとめよう。	
展開	<p>○教材を読んで、小さなペンギンについて話し合う。</p> <p>○スライドを見て、イメージを膨らませながらペンギンのよいところを考える。</p> <p>○このペンギンは、自分のよいところについて考えています。どんなことを言ってあげたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さくてかわいいね。 ・泳げるからすごいね。 ・いいところがいっぱいあるね。 <p>○ペンギンの気持ちを考える。</p> <p>○お母さんの話を聞いて、「ぼく」はどんな気持ちになったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うれしい。 ・ぼくにもいいところたくさんあるな。 <p>○自分のよいところを探す。</p> <p>○前に友達に送ってもらったカードを見ながら、自分のよいところをカードにまとめてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは走るのがとくいだ。 ・わたしは友達にやさしいって言われたな。 <p>○友達のつくったカードを見て感想を伝える。</p> <p>○完成したカードを提出BOXに送りましょう。同じ班の友達のカードを見て、すてきなところを伝えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aさんは走るのがとくいでかっこいいね。 ・Bさんは困ったときに優しく声をかけてくれるから嬉しいよ。 	<p>◇教材を読む前に真っ白なペンギンの絵を貼り、教師が「ぼく」役になって会話をするように発問する。「ぼく」と会話をするように考えることで、「ぼく」の気持ちに共感しながら教材に入れるようにする。</p> <p>■挿絵と登場人物の発言を使ったスライド作成し、それを見せながら教材文を読み聞かせことで、イメージをもたせやすくする。</p> <p>◇お母さんによいところを見付けてもらって、元気になった「ぼく」の気持ちをおさえる。</p> <p>◇教材文を参考に、生活態度や友達との関わり、文化面・運動面など様々な面から自分のよさを捉えさせる。</p> <p>■オクリンク使用することで、任意のタイミングで友達の考えを見て、自分の考えの参考にさせる。</p> <p>◆自分のよいところを見付け、それを大切にしようとする気持ちをもてたか。(発表、オクリンクのカード)</p>

	<p>○自分のよさを見付ける。</p> <p>○自分のよいところはどんなところですか。自分のよさを見付けて、どんな気持ちになりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・走るのが速いところ。もっと速くなりたい。 ・字がきれいなところ。宿題をがんばってよかった。 ・好き嫌いしないところ。これもよいところになるんだなと思った。 	
振り返り	○「自分のよさ」について改めてアンケートをとる。	<p>■導入の時と同じアンケートを実施し、即時結果を表示する。</p> <p>◇一人一人が自分のよさについて見付けられたことを振り返る。</p>

<本時の観察の視点>

- ・導入と展開前段の資料提示でICTを活用したことは、児童に道徳的価値に迫らせるために有効だったか。
- ・自分のよさを見付け伝える活動でオクリンクを活用したことは、児童に友達や自分のよさや特徴に目を向けさせるために有効だったか。